

報道関係者各位

2019年9月5日  
慶應義塾図書館  
丸善雄松堂株式会社

## 第31回慶應義塾図書館貴重書展示会

# 究極の質感 《マテリアリティ》

### — 西洋中世写本の輝き —

主催：慶應義塾図書館 協賛：丸善雄松堂株式会社

【会期】2019年10月2日（水）～10月8日（火）9：00～21：00（最終日は16時閉場）

【会場】丸善・丸の内本店4階ギャラリー

〒100-8203 東京都千代田区丸の内1-6-4 丸の内オアゾ内 TEL (03)5288-8881

入場  
無料

「慶應義塾図書館貴重書展示会」では、慶應義塾図書館が所蔵する数ある貴重書を各回テーマに沿って展示し、一般の方々に公開しております。毎年多くの来場者にお越しいただき今年で第31回を迎えます。

#### ■ 展示会の見どころ

第31回となる今年は、慶應義塾図書館が所蔵する15世紀半ばの『グーテンベルク42行聖書』以前の中世写本コレクション約100点を展示します。手描きの写本ゆえの物質性や<sup>マテリアリティ</sup>質感を感じていただきつつ、その実用性と美術性を兼ね備えたアナログの完成度をお楽しみください。

また会期中には、講演会やギャラリートークに加え、「本物の羊皮紙に羽ペンで書いてみる」ワークショップも開催します。

#### ○ 展示構成

- I 写本のマテリアリティ
- II 聖書 稀少
- III 暦
- IV 典礼書
- V 時禱書
- VI 学問と写本
- VII 俗語写本
- VIII 人文主義と写本
- IX リサイクルされた中世写本



## ● 会期中の各種イベント

展示をより深く楽しんでいただくため、各種イベントをご用意しています。

### ■ ギャラリートーク

本展示会の監修者である慶應義塾大学文学部の松田隆美教授が、展示内容や面白さを解説しながら会場を巡ります。参加をご希望される方は、開始時刻前までに展示会場にご参集ください。

❖ 10月4日（金）18:00～ 慶應義塾大学文学部教授 松田隆美

❖ 10月6日（日）15:00～ 慶應義塾大学文学部教授 松田隆美

### ■ 講演会

本展示内容に沿ったテーマを、第一線でご活躍中のお二方に講演いただきます。参加をご希望される方は、開始時刻前までに展示会場にご参集ください。

❖ 10月5日（土）13:00～ 羊皮紙工房主宰 八木健治 「中世の紙『羊皮紙』のおはなし」

❖ 10月6日（日）13:00～ 実践女子大学美学美術史学科教授 駒田亜紀子

「西洋中世写本装飾のマテリアリティ：装飾の語る写本の“ヒストリー”」

### ■ ワークショップ

講演会の講師の八木氏の進行により、本物の羊皮紙を使った楽しいワークショップを開催します。先着順に当日12時から展示会場内で整理券を配布します。

❖ 10月5日（土）15:00～ 羊皮紙工房主宰 八木健治 「羊皮紙に羽ペンで書いてみよう」

□ イベントスケジュール （◆ギャラリートーク ★講演会 ●ワークショップ）

10月2日 （水）	10月3日 （木）	10月4日 （金）	10月5日 （土）	10月6日 （日）	10月7日 （月）	10月8日 （火）
		18:00 ◆	13:00 ★ 15:00 ●	13:00 ★ 15:00 ◆		(16時閉場)

## ■ 主な展示品のご紹介

### ラテン語時禱書 (南ネーデルランド、15 世紀中期) 《エリザベス 1 世の侍女が所有していた時禱書》

本写本は「フィトン時禱書」として知られ、15 世紀中頃に南ネーデルランド地方（おそらくブルージュ）で制作された。15 世紀から 16 世紀初期のネーデルランドでは、時禱書をはじめとする彩飾写本が盛んに制作され、それらは外国にも輸出されていた。本写本の典礼方式はイングランドの教会で広く採用されていたソールズベリ式で、このことから、この写本がイングランドに輸出されるべく制作されたことがわかる。本書には、エリザベス 1 世に侍従・侍女として仕えていた 3 名の人物の署名が、合計 4 カ所に見いだされる。所有者の変遷が推察され、興味深い。



### アウグスティヌス『主と使徒の言葉』（イングランド、12 世紀） 《中世の装丁を保っているアウグスティヌスの説教集》

稀少

『主と使徒の言葉』は 7 世紀後半に北イタリアで編纂されたアウグスティヌスの説教集で、本写本は後期のロマネスク体で書かれたものである。現在では後半に属する 32 葉しか残っておらず、表表紙が外れて装丁がむき出しになっている。装丁は中世のもので、ヨークシャーのファウンテンズのシトー会修道院で制作された写本に類例が見られる。句読法もシトー会の写本の典型で、この大型の写本が公衆への朗読に使用されたことを示している。



## キケロ『善と悪の究極について』

(フィレンツェ、1450–60年頃)

《ジョルジョ・アントニオ・ヴェस्पッチ旧蔵のキケロ写本》

本書はキケロ（106 – 43 B.C.）の最晩年の哲学的対話篇で、倫理学の原理を扱った『善と悪の究極について』の写本である。巻頭ページの装飾は15世紀後半にフィレンツェで活躍し、メディチ家のために多くの写本装飾を手がけたフランチェスコ・ダントニオ・デル・ケリコ（Francesco d’Antonio del Cherico）の様式で、本文の余白には15世紀を代表するヒューマニストのジョルジョ・アントニオ・ヴェस्पッチ（Giorgio Antonio Vespucci; c. 1434–1514）による自筆の書き込みが見られ、イタリア・ルネサンスの古典研究の姿を伝える一級資料といえる。



## ラテン語聖書（フランス、13世紀中葉）

《本文と対応する物語イニシャル》

旧約聖書続編『マカバイ記1』（序-2:44）の零葉。『マカバイ記1』の冒頭は、11行分の高さの物語イニシャル‘C’で始まっていて、文字の中に槍を持って突撃する、甲冑に身を固めた中世の騎士の姿が描かれている。この挿絵は、ユダヤの独立戦争を指揮した紀元前2世紀の英雄で、中世では、騎士道精神を完璧に体現した「九偉人」（Nine Worthies）のひとりに数えられていたユダ・マカバイの姿を描いたもので、物語中の描写に対応していると思われる。こうした物語イニシャルは本文への視覚的導入の役割を果たしていると言える。



### ● 慶應義塾図書館貴重書展示会情報

[http://www.mita.lib.keio.ac.jp/exhibition/annual\\_exhibition/](http://www.mita.lib.keio.ac.jp/exhibition/annual_exhibition/)

### ● 丸善・丸の内本店イベント情報

[https://honto.jp/store/news/detail\\_041000037470.html?shgcd=HB300](https://honto.jp/store/news/detail_041000037470.html?shgcd=HB300)

お問い合わせ

丸善雄松堂株式会社 経営管理部 広報担当 川澄 Tel: 03-6367-6006